



# 株式会社トモク 2021年3月期 第2四半期 決算説明資料

2020年11月

東証・札証

3 9 4 6



1. 2021年3月期第2四半期決算
  2. 2021年3月期決算見通し
  3. 成長戦略・中計の進捗状況について
  4. ESG・SDGsの取り組みについて
- ご参考資料（会社概要など）

「包む」をイノベーションする。

A photograph of a modern, multi-story office building with a large glass facade. The building is set against a blue sky with light clouds. In the foreground, there is a paved area and some greenery. The text "2021年3月期第2四半期決算" is overlaid on the right side of the image in white.

# 2021年3月期第2四半期決算

「包む」をイノベーションする。



TOMOKU

**コロナ禍の影響が想定以上に大きく、減収・営業減益。**

**売上高79,232百万円（前年同期比△4.9%）、営業利益1,450百万円（同△12.8%）**

**売上高……コロナ禍による総需要の減少により、  
段ボール、住宅、運輸倉庫全てが減収**

**営業利益……段ボールは増益、住宅は損失拡大、運輸倉庫は減益。**

### 段ボール

**売上高（前年同期比△5.0%）、営業利益（同+2.6%）**

\* 生産量は、若干減少するものの、コスト削減により増益

### 住宅

**売上高（同△6.5%）、営業損益（損失増 同△163百万円）**

\* 住宅事業は、住宅の受注が上半期伸長しており、通期では増収増益の予定

### 運輸倉庫

**売上高（同△3.8%）、営業利益（同△11.9%）**

\* コロナ禍による生産・消費活動の停滞で、取扱数量が減少、効率性も低下

## 減収・営業減益：コロナ感染拡大の影響が想定外に大きく、計画値を下回る結果に

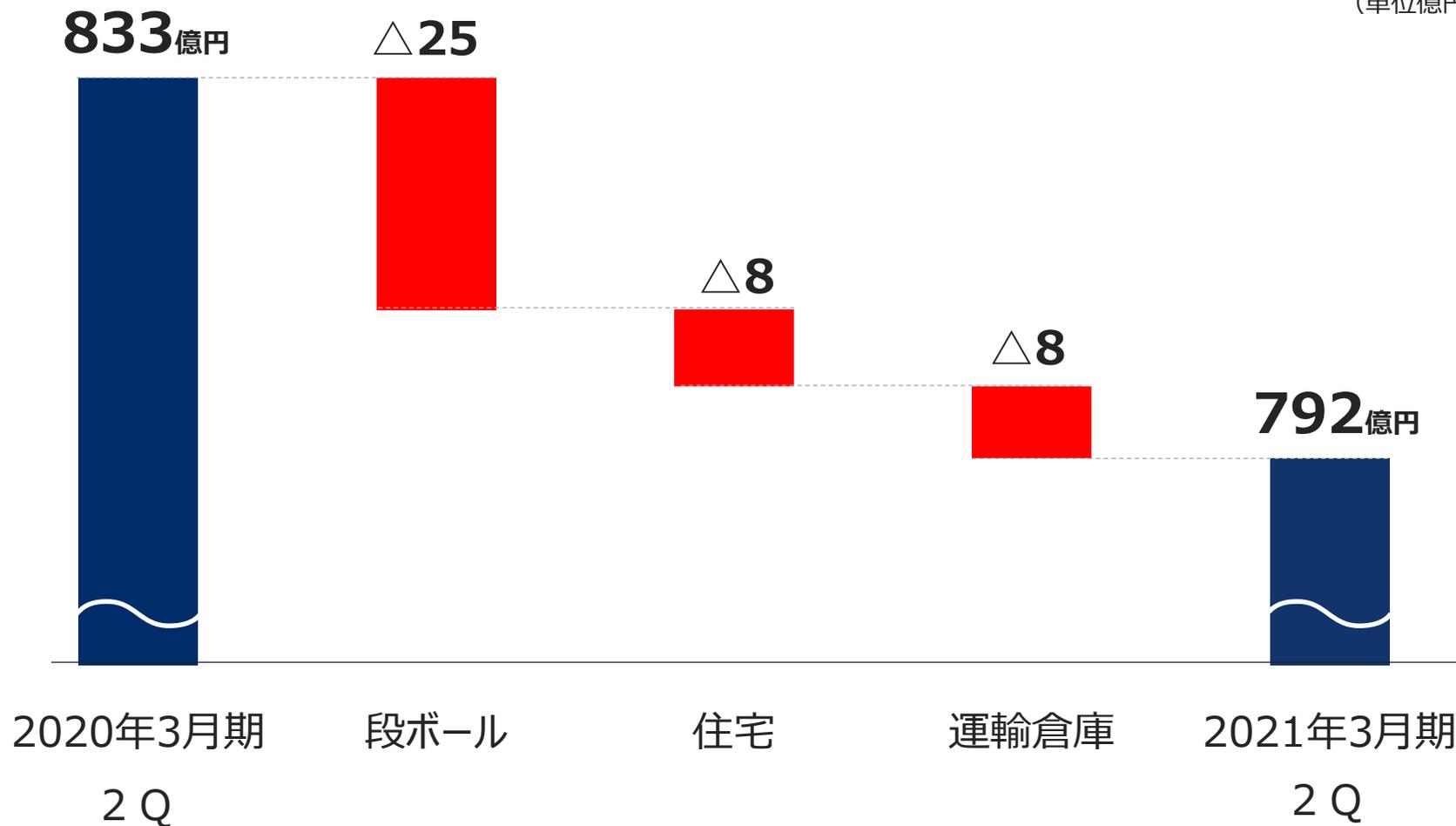
(百万円)

	2020年3月期 1Q・2Q	構成比 (%)	2021年3月期 1Q・2Q	構成比 (%)	前年 同期比 (%)	期初計画 2020/5/8	期初計画比 (%)
売上高	83,332	100.0	<b>79,232</b>	100.0	△4.9	90,000	△12.0
売上原価	70,006	84.0	<b>66,478</b>	83.9	△5.0	-	-
売上総利益	13,325	16.0	<b>12,754</b>	16.1	△4.3	-	-
販売費及び 一般管理費	11,661	14.0	<b>11,304</b>	14.3	△3.1	-	-
営業利益	1,663	2.0	<b>1,450</b>	1.8	△12.8	2,300	△37.0
経常利益	1,735	2.1	<b>1,595</b>	2.0	△8.1	2,400	△33.5
親会社株主 帰属四半期 純利益	975	1.2	<b>980</b>	1.2	+0.5	1,100	△10.9

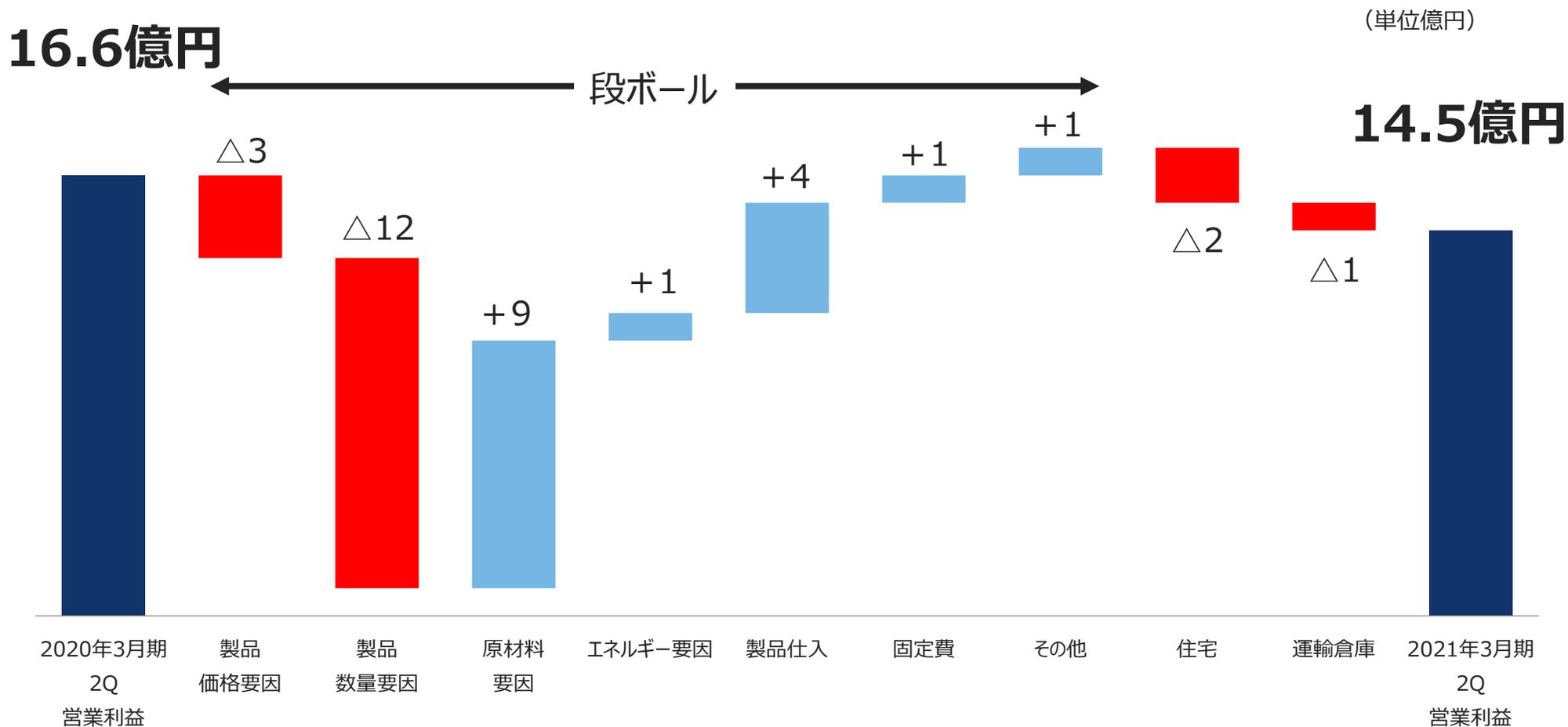
各セグメント共に新型コロナウイルス感染拡大による需要減少の影響を受ける。

段ボールは業界全体の国内生産に比べて減少幅は小さいものの、当社売上の約5割を占め、最大の減収要因。

（単位億円）



段ボールは、前年同期比改善。新型コロナウイルス感染拡大による減収の影響を内作率の向上と原材料調達数量の減少でカバー。住宅・運輸倉庫の減収も影響。



減収下で、コロナウイルス感染拡大を意識したコストコントロール（原価管理と販管費抑制）を行い、営業利益を確保（営業利益率1.8%と前期比△0.2%に留まる）

（百万円）

	2020年3月期				2021年3月期		
	1 Q・2 Q	構成比 (%)	3 Q・4 Q	構成比 (%)	1 Q・2 Q	構成比 (%)	前年同期比 (%)
売上高	83,332	100.0	93,251	100.0	<b>79,232</b>	100.0	△4.9
売上原価	70,006	84.0	76,720	82.3	<b>66,478</b>	83.9	△5.0
売上総利益	13,325	16.0	16,531	17.7	<b>12,754</b>	16.1	△4.3
販売費及び 一般管理費	11,661	14.0	11,283	12.1	<b>11,304</b>	14.3	△3.1
営業利益	1,663	2.0	5,248	5.6	<b>1,450</b>	1.8	△12.8
経常利益	1,735	2.1	5,372	5.8	<b>1,595</b>	2.0	△8.1
親会社株主帰属 四半期純利益	975	1.2	3,587	3.8	<b>980</b>	1.2	+0.5

セグメント別売上構成比ほぼ変わらず。段ボールは価格改定効果もあり収益改善。

住宅はリフォームが前年度の消費増税前の駆け込み需要反動減、見積・着工の先延ばし傾向が続く。

（百万円）

		2020年3月期				2021年3月期		
		1・2Q	構成比 (%)	3・4Q	構成比 (%)	1・2Q	構成比 (%)	前年 同期比
段ボール	売上高	50,492	60.6	49,347	52.9	<b>47,989</b>	60.6	△5.0%
	セグメント利益 (利益率)	2,801 (5.5%)	-	2,892 (5.9%)	-	<b>2,875 (6.0%)</b>	-	+2.6%
住宅	売上高	12,770	15.3	26,665	28.6	<b>11,946</b>	15.1	△6.5%
	セグメント利益 (利益率)	△1,835 (-)	-	2,456 (9.2%)	-	△1,998 (-)	-	△163
運輸倉庫	売上高	20,068	24.1	17,240	18.5	<b>19,296</b>	24.3	△3.8%
	セグメント利益 (利益率)	1,083 (5.4%)	-	381 (2.2%)	-	<b>954 (4.9%)</b>	-	△11.9%
合計	売上高	83,332	100.0	93,251	100.0	<b>79,232</b>	100.0	△4.9%

昨年下期取得した土地への段ボール工場建設は、コロナウイルス感染拡大を踏まえ、スケジュールを後ろへ移行。今下期は新規工場用地取得の予定はなし。

(百万円)

資産の部	2021年3月期 2Q末	前期末増減
流動資産	61,468	+2,958
現預金	9,995	△564
受取手形・売掛金	29,316	△208
棚卸資産	13,902	+3,359
固定資産	93,333	+5,198
有形固定資産	77,664	+3,997
投資その他の資産	15,419	+1,194
資産合計	154,801	+8,155

負債の部	2021年3月期 2Q末	前期末増減
流動負債	41,138	+1,894
支払手形・買掛金	17,391	△2,275
短期借入金	6,112	△2,221
その他（未成工事 受入金など）	14,572	+6,872
固定負債	47,748	+5,219
長期借入金	34,660	+4,081
純資産	65,913	+1,041
(内自己株式)	(4,321)	(+1)
負債・純資産合計	154,801	+8,155

期中は、住宅事業で在庫が増加する関係で、営業活動CFが過小になる傾向あり

投資活動CF (△18億円) = 設備投資△58億円 + 設備未払金 + 40億円

(百万円)

	2020年3月期 1Q・2Q	2021年3月期 1Q・2Q	前年同期比 増減	備考	2020年3月期 年間 (ご参考)
現金・同等物 期首残高	10,045	<b>10,325</b>	+280		10,045
営業活動CF	△79	<b>△125</b>	△46	* 上期は住宅事業で 在庫増加の影響あり	<b>10,873</b>
投資活動CF	△6,236	<b>△1,828</b>	+4,408	有形固定資産 取得支出 △1,866	△10,524
フリーCF	△6,315	<b>△1,953</b>	+4,362		349
財務活動CF	3,726	<b>1,409</b>	△2,317	長期借入金返済 △3,429	△123
現金・同等物 期末残高	7,509	<b>9,762</b>	+2,253		10,325

# 2021年3月期決算見通し

「包む」をイノベーションする。



TOMOKU

**段ボール：堅調、 住宅：好調、 運輸倉庫：コロナ禍で低調だが中長期戦略に焦点**

### 段ボール

### 食品加工中心のため、コロナ禍でも、確実に需要を捕捉

コロナ禍でも、加工食品・ECを中心に需要は底堅く推移。国内市況は当面安定。  
下半期は、コロナ禍の経済活動定着を前提に、需要は回復へ。  
海外（アメリカ・ベトナム）は需要旺盛だが、コロナ禍で生産増強スケジュールが後ろ倒しへ。

### 住宅（スウェーデンハウス）

### コロナ禍でライフスタイル変化もあり、戸建て需要取り込み強化

コロナ禍で、在宅勤務の浸透などライフスタイルに変化。  
郊外中心に、戸建て販売が好調。バーチャル展示会などWEB営業も奏功。  
反面、リフォームは、対面営業のため不振。WEB対応を強化し、更なる需要掘り起こしへ。

### 運輸倉庫

### 法人需要困り込みへ、顧客と協働で物流センターを建設

コロナ禍で、国内景気の回復が見込まれるものの、主力製品の飲料は、自販機やコンビニエンスストアの停滞が続くと予想される中、先行投資で顧客との関係強化、困り込みを図る。  
大手飲料メーカーと在庫管理伴うDC型倉庫や物流センターを建設。

段ボールは、代替物が少なく、リサイクルで省資源性が高く、堅実な成長が見込まれる。

### 当社への需要は加工食品分野

コロナ禍（新しい生活様式）でも  
着実な需要。

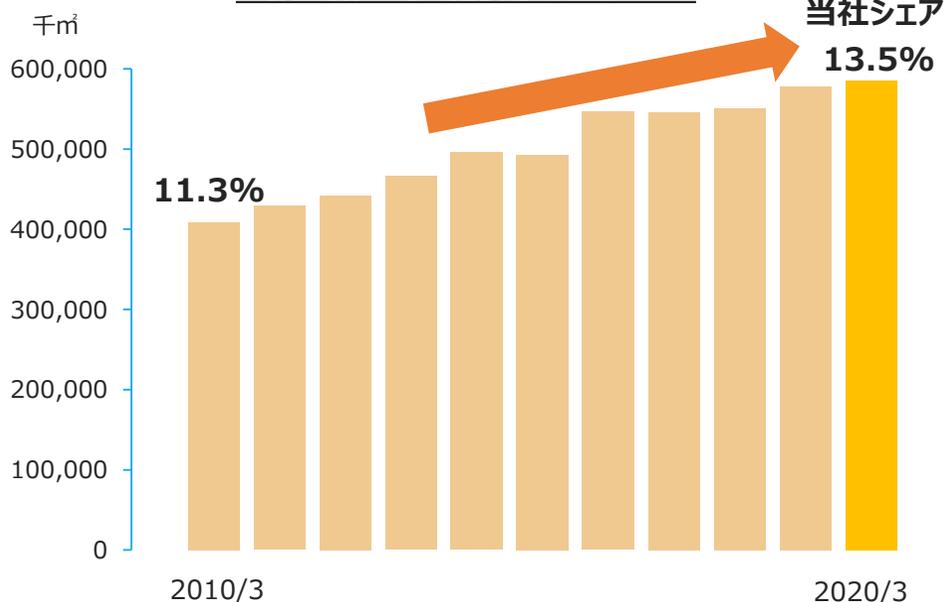
+

### 安定した市況動向

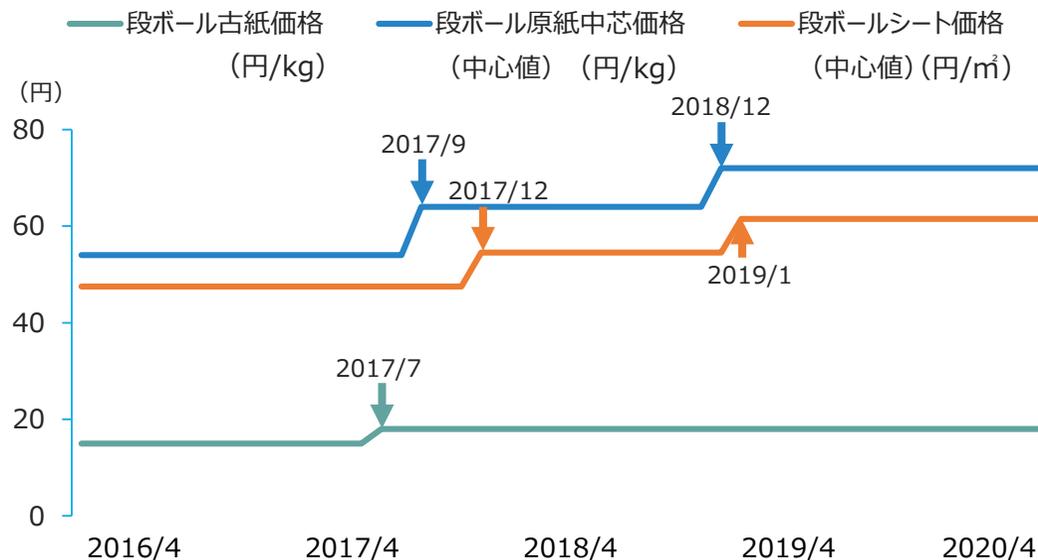
段ボール原紙・製品（シート）価格とも横ばい。  
堅調な需要を背景に、原紙価格を踏まえた  
製品価格が形成されている状況。

### 生産量・全国シェアは増加傾向

#### 当社加工食品向け生産量



#### 段ボール価格推移表



(出典：日本経済新聞、古紙再生促進センター)

## 新型コロナウイルス感染拡大で、住宅ビジネスに大きな変化

コロナ禍で生活空間環境の質を追求するライフスタイル志向強まる  
郊外・トカイナカでの戸建住宅志向 → 当社ビジネスに追い風

2021年3月期 1Q・2Q上半期：当社受注棟数は約2割強増加（⇔販売棟数は△4.3%）  
（子育て層を対象として新規格住宅「ハンマベスト」「レットナード」を含む）

### 販売棟数推移

### 受注棟数推移

2021年3月期  
1Q・2Q

△4.3%（前年同期比）

+22.3%（前年同期比）

受注棟数は好調  
上期期ズレ案件もあり、  
下期は、売上高増加へ

2021年3月期 1Q・2Q  
売上高実績

2021年3月期 3Q・4Q  
売上高予想

△6.5%（同）

+16.5%（同）

期初計画修正だが、増収増益で着地へ。収益性もほぼ変わらないと見込む

売上高：0.2%増の1,770億円 営業利益：2.7%増の71億円

(百万円)

	2020年3月期 (実績)	構成比 (%)	2021年3月期 (修正計画)	構成比 (%)	前期比 (%)	2021年3月期 (期初計画)	構成比 (%)
売上高	176,583	100.0	<b>177,000</b>	<b>100.0</b>	<b>+0.2</b>	185,000	100.0
営業利益	6,911	3.9	<b>7,100</b>	<b>4.0</b>	<b>+2.7</b>	7,500	4.1
経常利益	7,107	4.0	<b>7,400</b>	<b>4.2</b>	<b>+4.1</b>	7,700	4.2
親会社株主帰属 当期純利益	4,562	2.6	<b>4,600</b>	<b>2.6</b>	<b>+0.8</b>	4,800	2.6

## コロナ禍の影響続くが、下期は回復、前年同期比増収増益を見込む。

(百万円)

	2020年3月期（実績）				2021年3月期（実績・修正計画）			
	1Q・2Q	構成比 (%)	3Q・4Q	構成比 (%)	1Q・2Q (実績)	構成比 (%)	3Q・4Q (修正計画)	構成比 (%)
売上高	83,332	100.0	93,251	100.0	79,232 (△4.9%)	100.0	<b>97,768</b> <b>(+4.8%)</b>	<b>100.0</b>
営業利益	1,663	2.0	5,248	5.6	1,450 (△12.8%)	1.8	<b>5,650</b> <b>(+7.7%)</b>	<b>5.8</b>
経常利益	1,735	2.1	5,372	5.8	1,595 (△8.1%)	2.0	<b>5,805</b> <b>(+8.1%)</b>	<b>5.9</b>
親会社株主 帰属純利益	975	1.2	3,587	3.8	980 (+0.5%)	1.2	<b>3,620</b> <b>(+0.9%)</b>	<b>3.7</b>

段ボール：コロナ禍で法人向け需要昨年よりもやや弱く、工場投資償却負担もあり減収減益へ

住宅事業：ライフスタイルの変化で、WEBを通じた弊社戸建て需要は強く、業績を牽引へ

運輸倉庫：段ボール事業に連動して、法人向け運搬需要はやや弱く、コスト増もあり減益へ (百万円)

		2020年3月期 (実績)	2021年3月期 (修正計画)	前期比
段ボール	売上高	99,839	<b>98,000</b>	△1.8%
	セグメント利益 (利益率)	5,693 (5.7%)	<b>5,500 (5.6%)</b>	△3.4%
住宅	売上高	39,435	<b>43,000</b>	+9.0%
	セグメント利益 (利益率)	621 (1.6%)	<b>1,100 (2.6%)</b>	+77.1%
運輸倉庫	売上高	37,308	<b>36,000</b>	△3.5%
	セグメント利益 (利益率)	1,464 (3.9%)	<b>1,300 (3.6%)</b>	△11.2%
合計	売上高	176,583	<b>177,000</b>	+0.2%

下期：段ボールは増収だが工場投資償却負担あり減益、住宅は二けた増収増益。

(百万円)

		2020年3月期 1Q・2Q (実績)	2020年3月期 3Q・4Q (実績)	2021年3月期 1Q・2Q (実績)	前年 同期比	2021年3月期 3Q・4Q (修正計画)	前年 同期比
段ボール	売上高	50,492	49,347	47,989	△5.0%	<b>50,011</b>	+1.3%
	セグメント利益 (利益率)	2,801 (5.5%)	2,892 (5.9%)	2,875 (6.0%)	+2.6%	<b>2,625 (5.2%)</b>	△9.2%
住宅	売上高	12,770	26,665	11,946	△6.5%	<b>31,054</b>	+16.5%
	セグメント利益 (利益率)	△1,835 (-)	2,456 (9.2%)	△1,998 (-)	△163	<b>3,098 (10.0%)</b>	+26.1%
運輸倉庫	売上高	20,068	17,240	19,296	△3.8%	<b>16,704</b>	△3.1%
	セグメント利益 (利益率)	1,083 (5.4%)	381 (2.2%)	954 (4.9%)	△11.9%	<b>346 (2.1%)</b>	△9.2%
合計	売上高	83,332	93,251	79,232	△4.9%	<b>97,768</b>	+4.8%

**方針：「中長期成長投資」のための内部留保と「積極的な株主還元」のバランス**

**2021年3月期：期初計画年45円（前期同額：中間20円・期末25円）から変更なし。  
 コロナ禍の事業への影響を考慮し、一定の内部留保は確保。**

2020年3月期（実績）45円（中間20円+期末25円）

**2021年3月期（予想）45円（中間20円+期末25円）**

(円)

	2016/3	2017/3	2018/3	2019/3	2020/3	2021/3 (予想)
<b>合計</b>	<b>30</b>	<b>35</b>	<b>35</b>	<b>50</b>	<b>45</b>	<b>45</b>
中間	15	15	15	20	20	20
期末	15	20	20	20	25	25
記念				10		



# 成長戦略・中期経営計画の進捗状況について

「包む」をイノベーションする。



TOMOKU

**コロナ禍という外部環境の変化はあるものの、中長期的な事業価値向上目標は不変**

## 「段ボール専門のトップメーカー」として、更なる基盤強化

- ・段ボール事業、住宅事業及び運輸倉庫事業の3事業を中心に「包む」を基本コンセプトに経営資源の高度化を目指して高品質経営を展開
- ・グループの持続的な成長と中長期的な企業価値向上で各事業の目標を明確化

### 2022年3月期

**売上高2,000億円 営業利益率5.8% ROE10%**

**運輸倉庫**  
**450億円**  
**(営業利益率5%)**

**段ボール**  
**1,100億円**  
**(営業利益率7%)**

**住宅**  
**450億円**  
**(営業利益率4%)**

	段ボール	住宅	運輸倉庫
目標値	<ul style="list-style-type: none"> <li>・売上高1,100億円</li> <li>・営業利益率7%</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・売上高450億円</li> <li>・営業利益率4%</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・売上高450億円</li> <li>・営業利益率5%</li> </ul>
活用資源	専業メーカーとしての 機動性・専門性	唯一無二の 高品質注文住宅	60年の物流ノウハウと全 国ネットワーク
成長手段	<ul style="list-style-type: none"> <li>・デジタル化、開発強化による高効率化推進</li> <li>・海外事業の拡大</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・モデルハウス再構築</li> <li>・作業工程の省力化</li> <li>・リフォーム強化</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・IT化</li> <li>・販売物流の拡大</li> <li>・営業拠点の拡充</li> </ul>
投資枠	<ul style="list-style-type: none"> <li>・500億円 (海外含む)</li> <li>・生産拠点の拡充・強化 (新技術導入・M &amp; A)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・100億円</li> <li>・部材内製化</li> <li>・製造合理化</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・100億円</li> <li>・システム投資</li> <li>・物流拠点の拡張</li> </ul>
内容	<ul style="list-style-type: none"> <li>・生産能力強化</li> </ul> 最新鋭設備導入 フォークリフト無人化 ロボット導入 ライン増設 工場用地取得 工場建物新設 環境にやさしいボイラ導入	<ul style="list-style-type: none"> <li>・モデルハウス建築</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・物流拠点の新設</li> <li>・倉庫新設</li> <li>・車両増車</li> <li>・車両入替</li> </ul>



段ボール：EC化、廃プラなど環境問題対応で、中長期的に需要増加が見込める

新工場（グループ会社トーシンパッケージ）（埼玉県加須市・2021年1月竣工予定）



首都圏近郊の  
拠点として  
生産能力を増強  
(現状能力の約3倍)

千葉紙器工場の増設（千葉県長南町・2020年8月）

片段機・合紙機を導入



## 包装機械：「e3neo」の投入



e3neo システム



アメリカ・ベトナム現法での設備増強工事は、コロナ禍で停滞（スケジュール遅れ）  
需要成長が見込めるため、中長期的な生産能力増強計画は、予定通り。

海外売上比率9.7% 営業利益16.6%（2021年3月期 1 Q・2 Q）

## アメリカ

生産能力（21年6月 ⇒ 21年8月予定）：19年3月期比 2.0倍 予定）

アメリカ・カルフォルニア州の  
工場建設、感染拡大による  
ロックダウン閉鎖で  
竣工2か月遅れる見込み



## ベトナム

生産能力（20年10月 ⇒ 21年3月～11月予定）：同上 1.5倍 予定）



「新しい生活様式」（ニューノーマル）に対応した戸建住宅需要の掘り起こし

子育て層を対象として新規格住宅

リモートワークスペースにも対応可能



2nd Floor Plan

LDK+FR+リモートワークスペース



1st Floor Plan

LDK+FR+リモートワークスペース

テレワークに最適なハウプラン



「ヘンマベスト」

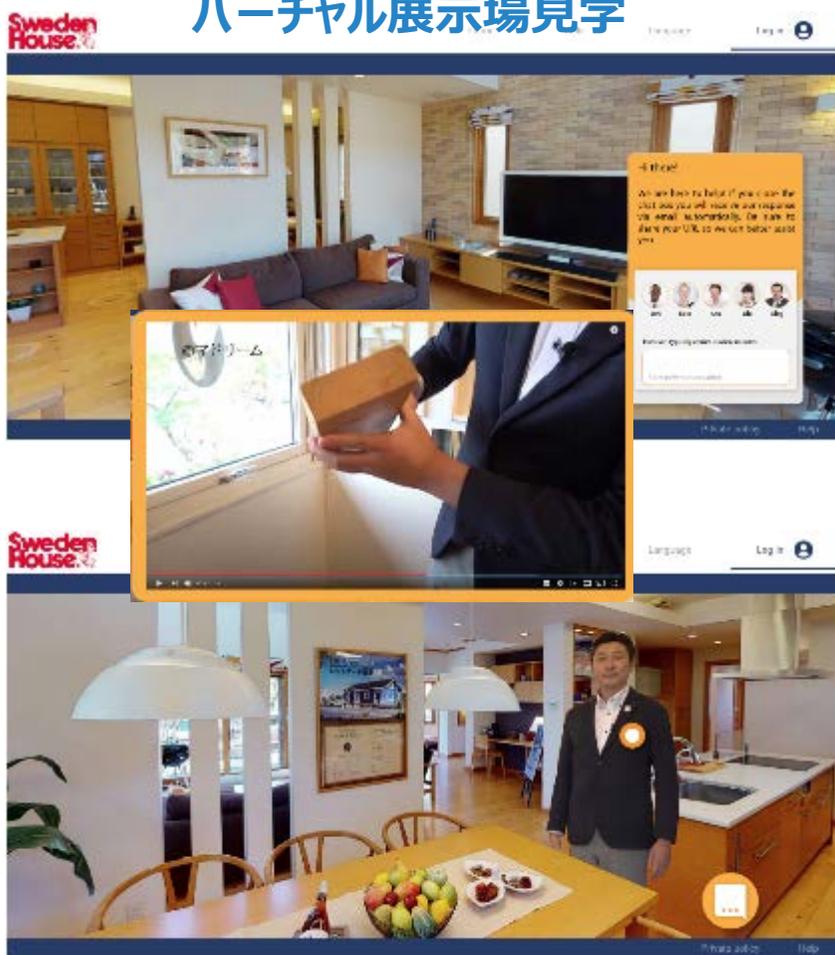


「レットナード」



アフターコロナ（新しい生活様式）も踏まえ「WEB活用」営業を推進し、奏功

バーチャル展示場見学



サーチエンジン対策も強化

オンライン相談会



専用アプリの提供  
「ムースくん」



3Dウォークスルー動画配信



飲料専用D C型倉庫を建設、将来は複合型倉庫へと発展予定

倉庫増設で当社段ボール事業の主力・加工食品分野での顧客囲い込みを図る



北関東：延床面積 11,700坪  
(2021年4月竣工予定)

北海道：延床面積 2,200坪  
(2021年10月竣工予定)





# ESG・SDGsの取り組みについて

「包む」をイノベーションする。



TOMOKU

## ミッション (使命)

お客様の大切な商品を包み、消費者の皆様にとっての価値を包み、  
人々の豊かな暮らしを包み、大切なものを包んで届ける。

## ビジョン (あるべき姿)

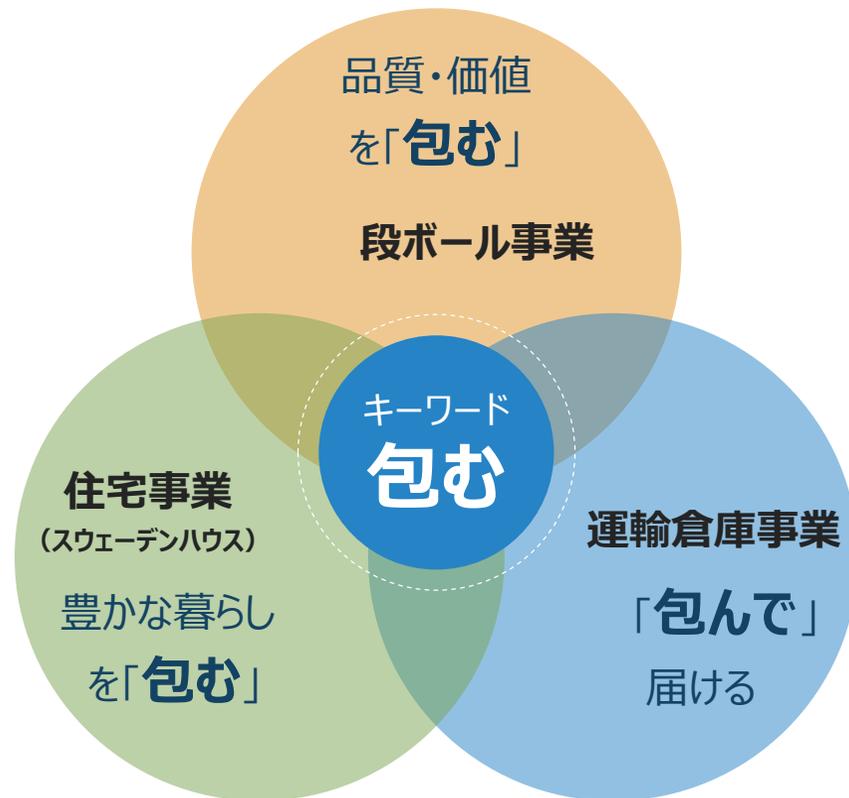
- 3つの事業で「包む」を基本コンセプトに経営資源の高度化をはかり高品質経営を展開する
- 高い倫理観と強い責任感を持って事業活動を通じて、社会の持続的発展に貢献する
- 新たな事業の構築に取り組み企業価値の更なる向上を目指す

## 長期経営目標

連結売上高 3,000億円以上

連結ROE 12%以上

## 日常を包む ⇒ 社会の持続的成長



# 「E」SG 地球環境保全

## マテリアリティ 気候変動対応

## トモクグループの取り組み

### 機会とリスク

- ・異常気象、自然災害リスクの増大
- ・労働環境悪化、炭素税導入
- ・低炭素社会への要求高まり
- ・省エネ・高断熱住宅の評価向上、普及



### 循環経済への貢献 (古紙回収、古紙利用)

#### CO2排出削減

- ・再生可能エネルギーの活用
- ・配送効率や燃費向上
- ・省エネ住宅の設計と普及
- ・効率化による省エネルギー

#### 温室効果ガス

**2030年 30%削減**  
(2013年比)

※バリューチェーンにおけるSDGsマッピングについては、  
参考資料の最終ページをご覧ください。

紙資源の省資源化に貢献 リデュース（軽量化）、リサイクル ⇒ CO<sub>2</sub> 削減

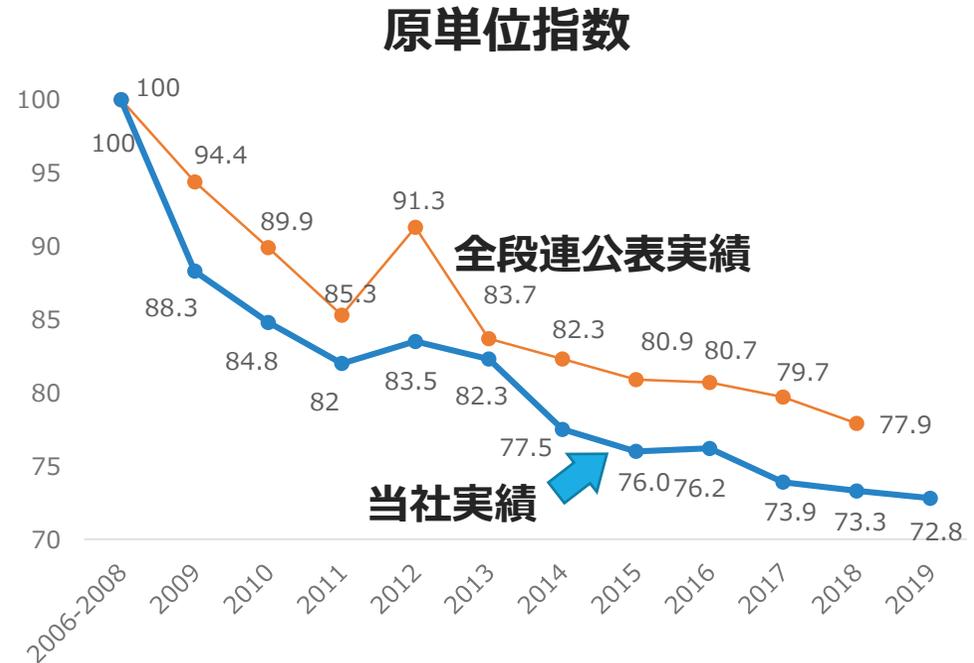
リデュース：使用材料の薄物化などで軽量化



リサイクル：リサイクル機構活用で、回収率95%以上  
つぶし易い、たたみ易い段ボールの開発・普及を促進



当社は業界平均を上回るCO<sub>2</sub>原単位を削減



国際リサイクルシンボル



(出所：全段連 = 全国段ボール工業組合連合会)

環境改善に直結 = 環境保全（森林育成・CO<sub>2</sub>削減）、省エネ（優れた断熱効果）

長寿命（100年）設計（環境保全）

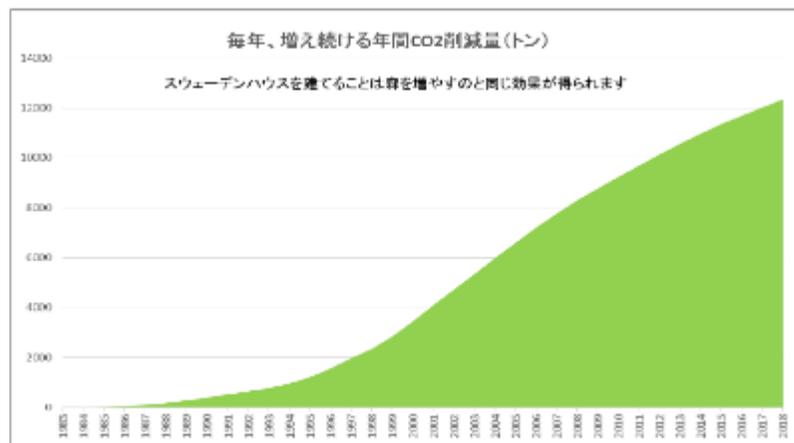
森林伐採サイクル長期化

二酸化炭素長期固定化

使用木材は、立木量ストックが年々増加



全国スウェーデンハウスの  
削減量：約12,350 t - CO<sub>2</sub>年



質の高い断熱効果（省エネ機能）

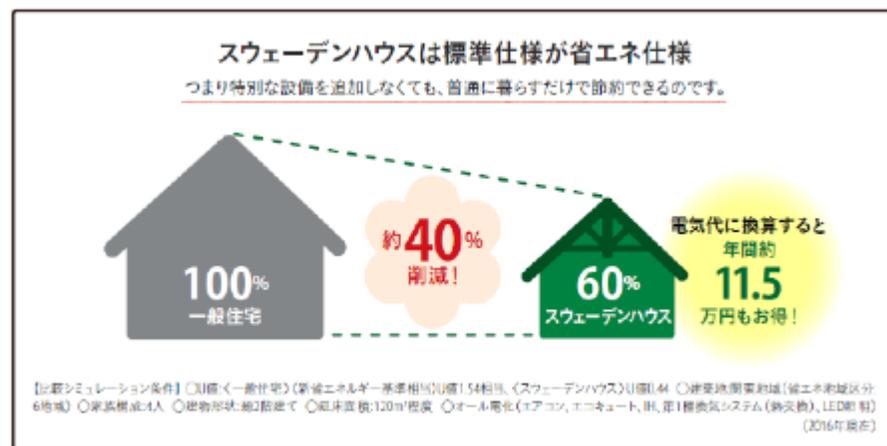
エネルギー消費量大幅削減

- ①家全体を包み込む分厚い断熱材
- ②木製サッシ3層ガラス窓による断熱性能
- ③高気密施工
- ④Z E Hに対応

(HUS ECO ZERO x ずっともソーラー)



スウェーデンハウス エネルギー消費量  
一般住宅比 約40%削減



ご参考資料（会社概要など）

TOMOKU innovates Packaging

「包む」をイノベーションする。



TOMOKU

感染拡大により全事業分野で需要が減少。コロナ禍の経済活動の回復を前提に需要増を見込む。

	2021年3月期 1Q・2Q（実績）	2021年3月期 3Q・4Q（見通し）
段ボール	<p><b>（国内）</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・飲料は、テレワークの影響で自販機・CVSの取扱量が減少</li> <li>・通販・乾麺等は取扱量が増加</li> </ul> <p><b>（海外）</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・アメリカ：レストラン、ディズニーランドなどの閉鎖、学校関係閉鎖の影響を大きく受ける。</li> <li>・ベトナム：グローバル企業の取扱量が大幅減。</li> </ul>	<p><b>（国内）</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・飲料については横這い。</li> <li>・通販は引き続き需要増。</li> <li>・北関東で新工場移転・生産能力増強。</li> </ul> <p><b>（海外）</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・アメリカ・ベトナム双方</li> <li>①グローバル企業及び地元企業の需要が増加</li> <li>②新型コロナの影響による設備投資遅れを想定</li> </ul>
住宅	<ul style="list-style-type: none"> <li>・リフォームは引き合いあるも自宅内見積・着工は先延ばし傾向が続き、契約には至らず。</li> <li>・展示場来場者は前年同期比50%まで縮小。WEBチャンネルでの販売強化策により、WEB消費世代へのアピールが奏功し、価格を抑えた企画商品を中心に受注は前年同期比2割増。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・リフォームはコロナ禍で不調続くが、戸建て需要は引き続き堅調を見込む。</li> <li>・展示場営業の代替手段を引き続き積極活用。（展示場の予約制・バーチャル展示場見学・オンライン相談会・3D動画配信・専用アプリ提供）</li> </ul>
運輸倉庫	<ul style="list-style-type: none"> <li>・段ボール同様飲料の取り扱いが減少</li> <li>・前期開設した飲料専用配送センター3か所（①札幌6月②門真2月③堺2月）及び複合センター④仙台10月が収益に寄与。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・飲料専用DC型倉庫を建設</li> <li>①北関東：延床面積 11,700坪（2020年8月着工、2021年4月竣工予定）</li> <li>②北海道：延床面積 2,200坪（2021年3月着工、2021年10月竣工予定）</li> </ul>

## 段ボール事業、住宅（スウェーデンハウス）事業、運輸倉庫事業

会社名 株式会社トモク 英文社名 TOMOKU CO.,LTD.

事業内容 段ボール、住宅、運輸倉庫など

所在地 〒100-0005 東京都千代田区丸の内2-2-2 丸の内三井ビル

設立 1949年5月27日  
**缶詰用木箱のメーカーとして北海道に設立。その後段ボール事業に転換、全国に事業拡大**

代表取締役 代表取締役会長 斎藤英男  
 代表取締役社長 中橋光男

資本金 13,669百万円（2020年3月末現在）

業績 売上高 176,583百万円 営業利益 6,911 百万円（2020年3月期）

従業員数 1,124名（単体）3,530名（連結）（2020年9月末現在（臨時従業員を除く））

証券コード 3946／東証一部、札証  
 上場市場

主要工場 17カ所 館林、岩槻、厚木、札幌、神戸、小牧など

連結子会社 17社 国内 14社（住宅事業：スウェーデンハウス、運輸倉庫事業：トーン、トーンロジテムなど）  
 海外 3社（段ボール事業：アメリカ・ロサンゼルス、ベトナム・ホーチミン 住宅事業：スウェーデン）

## 「3つの事業」を通じて、「3つのH」の実現に取り組む

「段ボール・紙器事業」、「住宅事業」、「運輸倉庫事業」

### High Moral

#### 高い倫理観・強い責任感

社会に貢献する企業として、法令等を遵守し、自らを律し、社会規範に則った責任ある行動をとる

### High Quality

#### 高品質経営

人材を育成し、技術を磨き、全ての経営資源の高度化と有機的連携の中で活力ある事業活動を展開

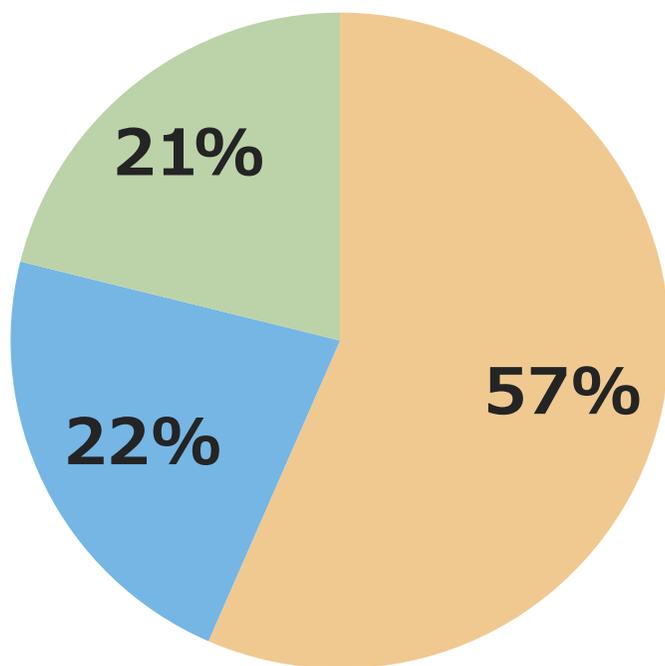
### High Return

#### 高収益・配当・賃金

十分な事業成果を生み出し、お客様・株主・従業員等ステークホルダーにとって価値ある企業であり続ける

段ボール事業 (57%) + 住宅事業 (22%) + 運輸倉庫事業 (21%\*)

\*2020年3月期



(2020年3月期)

段ボール

段ボールシート、段ボールケース、印刷紙器を製造、販売

米国・ベトナムでも現法を通じて事業展開

住宅

スウェーデンで生産された住宅部材を輸入して、高品質注文住宅事業「スウェーデンハウス」を展開

リフォーム事業も展開

運輸倉庫

当社段ボール類製品の輸送・保管のみならず、**段ボール製品供給先の製品輸送・保管も実施**

**成長・収益の基盤となる段ボール加工事業をベースに  
ダンボールを運ぶ、運輸倉庫事業。  
高品質住宅スウェーデン・ハウスを展開する「住宅事業」を展開**

### 段ボール加工専門トップメーカー

- ・段ボール生産量 業界第3位  
(2020年3月期)
- ・加工専門メーカーとして  
最適なメーカーから  
最適なタイミングで原紙調達



### 高品質住宅メーカー（スウェーデンハウス）

- ・高品質で差別化する注文住宅事業
- ・環境にやさしく、独自の市場を開拓、  
高いブランド効果で成長期待



+

### 物流事業も展開（運輸倉庫事業）

- ・段ボール顧客の物流・保管を  
一括受託
- ・顧客との関係強化に寄与
- ・当社収益の安定化に貢献



「段ボール」生産・加工専業で生産量1位、全体で3位。

BOXメーカーとは違い、貼合設備を保有し、最適なメーカーから最適なタイミングで原紙調達

国内段ボール業界

段ボール生産・加工

原紙を使い生産・加工

全国に200社以上\*

最適生産者から

最適タイミングで原紙調達

製紙一貫メーカー

(原紙工場あり)

(製紙メーカー含む)

① A社	30%
② B社	23%
③ D社	5%

段ボール専業メーカー

(原紙工場なし)

① 当社グループ	9%**
② C社	4%
③ E社	3%

段ボール加工

シートの加工を行うのみ  
多品種・小ロット加工

BOXメーカー

全国に約2000社\*

+

零細業者多く、事業承継も  
発生し、業界再編の中心

\*全国段ボール工業組合連合会調べ  
\*\*シート生産量シェアは当社調べ  
(2019年度)

## 顧客満足度と高生産性・高効率を両立する「専業」ビジネスモデル。

### 2つのメリット

段ボール原紙工場を持たないので原紙の国内外からの最適調達が可能  
顧客満足度と生産性向上へ集中投資



### 高い顧客満足度と採算性を両立

#### 効率的な生産・物流

- 業界最速スピードの最新鋭の高速貼合機（大手機械メーカーと共同開発）
- 工場は、最大消費地の関東中心に立地（段ボールは納期厳守が必須）
- 迅速かつ正確なデリバリーを支える物流システム（運輸・倉庫事業会社を活用）

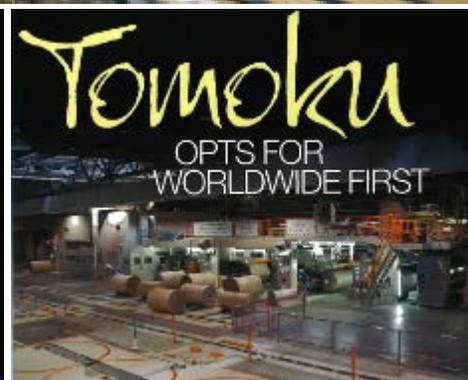
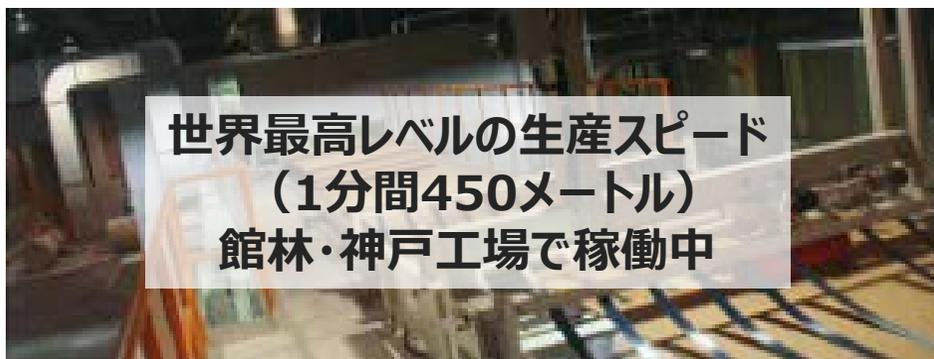
#### 工場と営業部門が一体化

- 工場が生産状況やコストを考慮し受注判断
- 採算性と効率性を追求した受注と生産体制

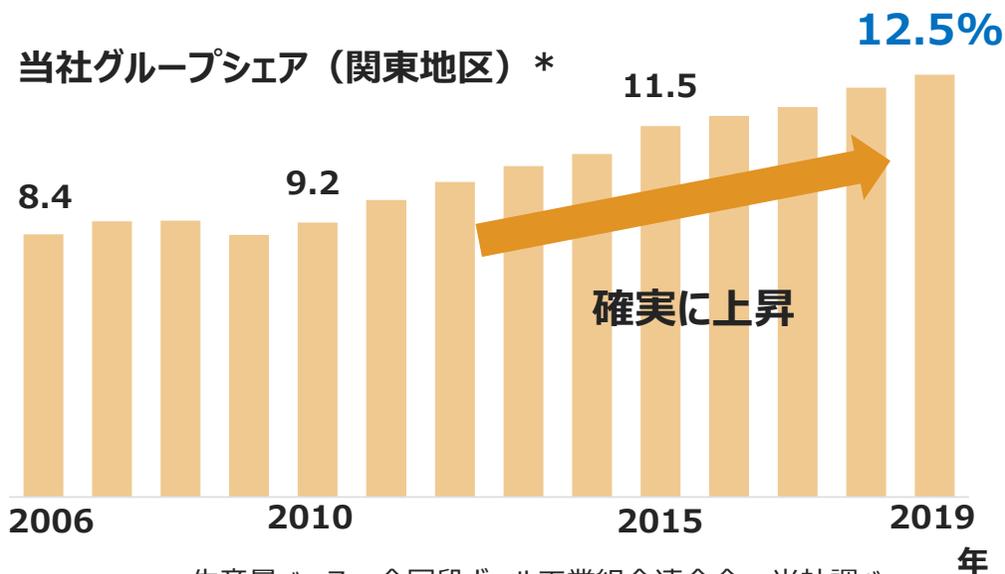


高い生産性・効率性を担保する設備と生産体制。消費地近接ビジネスにふさわしい工場立地。

業界No.1の最新鋭高速貼合機の導入  
(三菱重工業と共同開発)



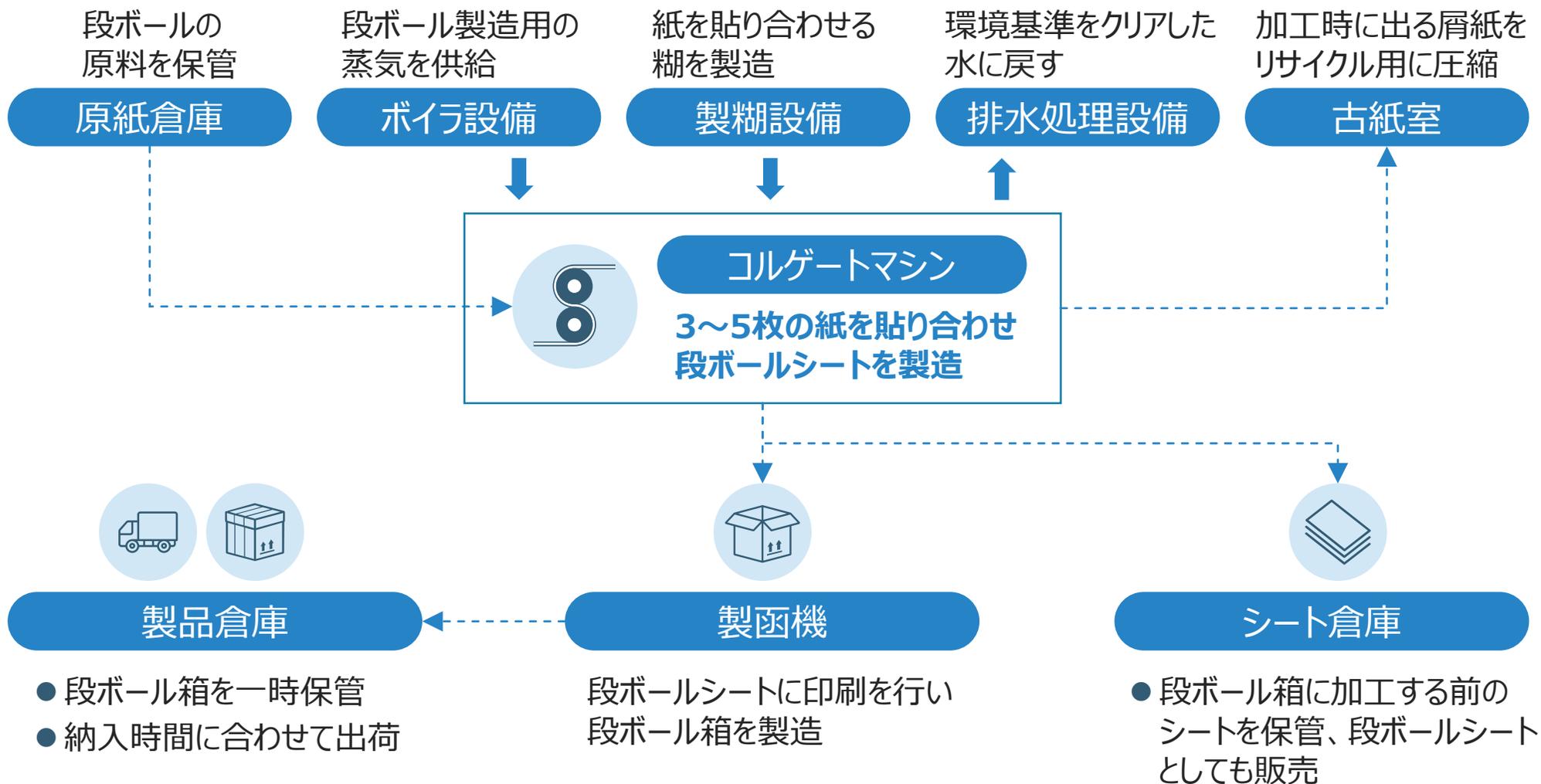
最大消費地の関東（全国の44%\*）に  
主力工場が立地



\* 生産量ベース：全国段ボール工業組合連合会+当社調べ

米業界雑誌「International Paper Board」で紹介

## 複数の紙を貼り合わせる高度かつ繊細な技術が中核。



**当社段ボール事業海外売上比率約11% 営業利益同18%（2020年3月期）**

**需要増を伴う増産で海外事業の収益貢献力高まる。**

## アメリカ

SOUTHLAND BOX COMPANY  
(カルフォルニア州ロサンゼルス・バーノン市)

**アメリカ本土で唯一の日系段ボールメーカー  
世界第2位の市場を確実に捕捉**

きめ細やかな日本流カスタマイズと  
迅速なデリバリー



+

## ベトナム

TOMOKU VIETNAM CO.,LTD.  
(ベトナム・ホーチミン郊外)

**ベトナムにおける最新鋭設備と  
日本の技術伝承**

日本基準の品質を提供し、  
ビジネス需要が増加



当社の祖業。1984年に注文住宅市場に本格参入、高品質で差別化、「ブランド」確立。



精緻な段ボールの加工技術を応用・発展

事業理念：資産価値の持続する家づくり  
品質の差別化：北欧クオリティの「居心地の良さ」



木造住宅でありながら、  
面で支える独自の高強度「モノボックス®」構造で  
高耐久性・堅牢性・耐震性とレイアウト可変性を実現

クオリティの高さ



**高気密**  
壁・床の継ぎ目にも、  
嚴重な気密施工

**高断熱**  
魔法瓶のように  
高性能な断熱構造

**計画換気**  
24時間熱交換型  
換気システムを採用

安定した実績

累計37,000戸 (1984年～)  
リフォーム受注高 約25億円  
(2020年3月期)

効果

段ボール事業の収益補完・  
平準化に寄与



段ボール顧客の製品輸送・保管を収益化。 段ボール事業の収益補完・強化に寄与。

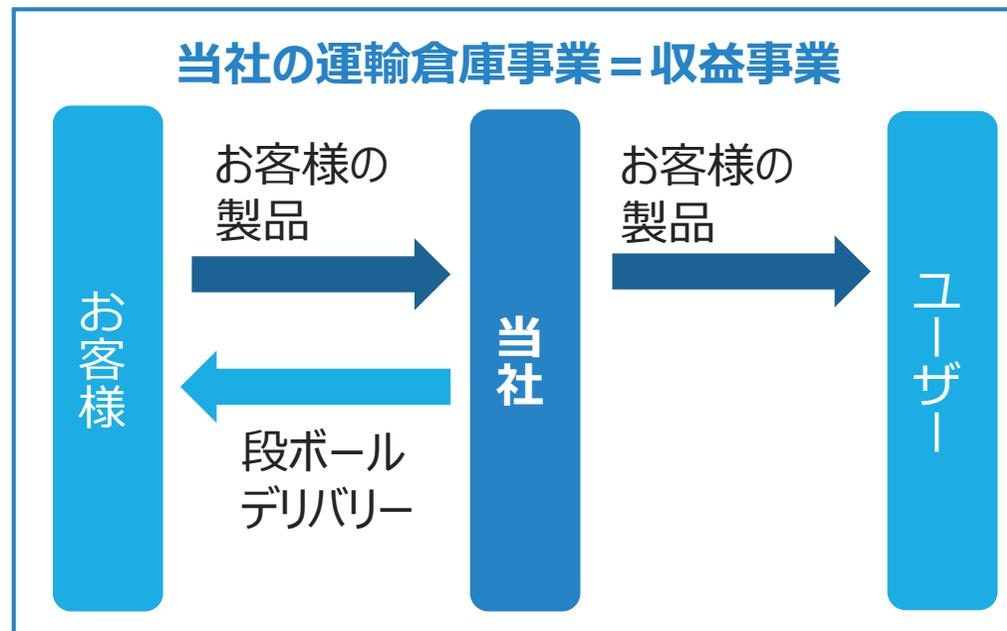
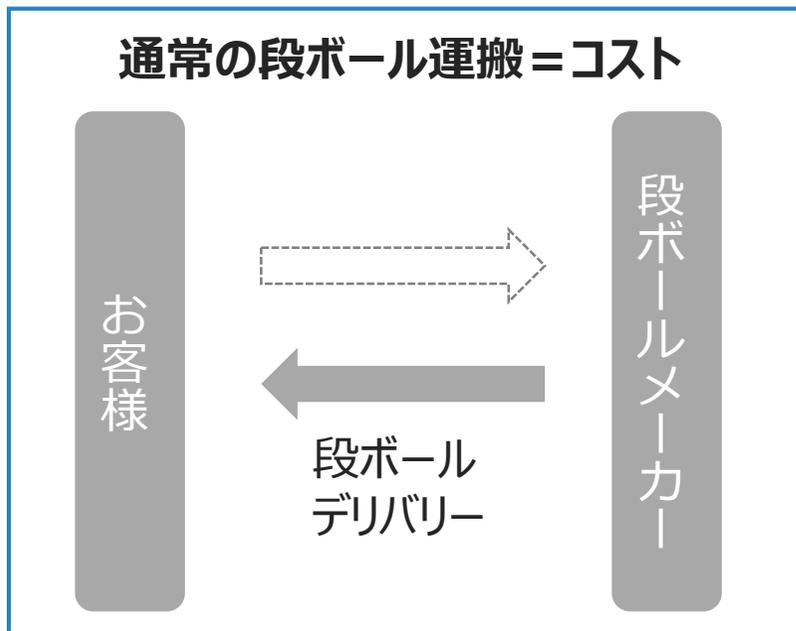
2020年3月期：拠点数拡大（+4拠点）などエリア拡大

### 直近の新規開設拠点

飲料専用配送センター

複合センター

- ①北海道・札幌（2019年6月）
- ②大阪・門真（2020年2月）
- ③大阪・堺（同上）
- ④仙台（2019年8月）



正の影響の強化

負の影響の最小化



## 免責事項

本資料は、当社の事業及び業界動向について当社による現在の予定、推定、見込み又は予想に基づいた将来の展望についても言及しています。

これらの将来の展望に関する表明は、様々なリスクや不確かさが伴っています。既に知られた、もしくははまだ知られていないリスク、不確かさその他の要因が、将来の展望に対する表明に含まれる事柄と異なる結果を引き起こさないとも限りません。当社は、将来の展望に対する表明、予想が正しいと約束することはできず、結果は将来の展望と著しく異なることもありえます。

本資料における将来の展望に関する表明は、2020年11月現在において利用可能な情報に基づいて、当社により2020年11月現在においてなされたものであり、将来の出来事や状況を反映して将来の展望に関するいかなる表明の記載をも更新し、変更するものではありません。

「包む」をイノベーションする。

# 株式会社トーモク

東証一部：証券コード 3946

連絡先 mail: [3946ir@tomoku.co.jp](mailto:3946ir@tomoku.co.jp)